

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ 「緩和ケアを知っていますか
それぞれの人生を大切に生きるために」
- 2 対 象 全校生、教職員
- 3 専門医 和泉 典子 医師
(鶴岡市立荘内病院)
- 4 実施月 7月
- 5 内 容(キーワード)
「幸せに感じることは何かを見つめる」
血液内科での経験談(高校生の患者さんとのエピソード等)
緩和ケアについて



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*健康課題の一つとして、心身の健康に対する関心の低さが挙げられる。しかし、講話後に実施したアンケート結果からは、生徒たちが「心身の健康とよりよい暮らしの関係」を具体的に実感し、健康に対する意識が高まった様子がうかがえた。

②校内の組織づくりについて

()とても有効だった

(○)有効だった

()課題が残った

<その理由>

*保健体育科と授業進度を踏まえたうえで、開催時期についても十分に相談し、計画的に実施することができた。また、職員会議の場を活用し、教職員全体へ周知を行うことで、校内の協力体制を整えることができた。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*講話内容については、先生とメールや電話で複数回やり取りを行い、具体的な内容を十分に詰めることができた。その過程で、本校生徒の実態についてもご相談する機会があり、貴重なご助言をいただいたことも大変ありがたかった。

〔受講者の感想など〕

- 「先生の実体験から熱い思いが伝わってきた」という意見が多く寄せられた。
- 「祖父ががんで亡くなっており、亡くなる前にどのような気持ちだったのかが少し理解できた」との感想もあった。
- 先生のリアルな経験談を通じて、受講者が患者の思いに寄り添いながら講話を受け止めていた様子がうかがえた。

〔教科やその他の指導との関連性〕

- 講話に先立ち、保健体育科において、全学年、がんの基礎知識について事前指導を行ったことは、生徒の理解を深めるうえで大変有意義であった。
- 2・3年生については、事前に緩和ケアに関する調べ学習も行っていたため、講話を通して緩和ケアへの理解がより深まった。

